

令和6年度第2回学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 東濃実業高等学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和6年11月7日（木） 10:00～12:00
- 3 開催場所 東濃実業高等学校あずさ館大会議室
- 4 委員
岡田 泰子 中部学院大学短期大学部幼児教育学科教授
細野 裕子 願興寺修復保存会会員
平井 高子 ふしみこども食堂代表（欠席）
村田 直城 パティスリーランド代表
丸山 貴弘 本校PTA役員（欠席）
堀部 佳彦 本校同窓会長
伊左治有希 伏見保育園園長
吉田 哲也 JAめぐみの伏見支店長（欠席）
山本 正憲 洞興寺住職（欠席）
(学校側) 中澤 正仁 校長
長屋 幸二 教頭
馬場 聖臣 教頭
澤田 徹 事務長
飯田 裕仁 教務主任
森 俊樹 生徒指導主事
鍵谷ひとみ 進路指導主事
高田 昌史 商業科主任
山田 陽子 生活産業科主任

5 会議の概要（協議事項）

(1) 授業見学

(2) 学校の状況の報告について

地域産業担い手育成総合戦略事業の研究校に指定され、今年度から5か年計画で取り組んでいる。地域の特産品を素材としたり商品や歴史的背景を有する商品の開発や、地域行事への参加、地域の小中学校、幼稚園への出張講座などを積極的に実施している。

就職は25%、進学が75%である。進学のはほとんどは指定校推薦である。

学校評価アンケートでは、保護者の「わからない」という回答が多かった。今年度は、保護者が学校を訪れる機会を多く設けている。

意見1：地域に関する研究発表大会における生徒の発表内容について知りたい。

意見2：保育士不足は社会的問題であるが、保育園との交流により保育士のやりがいを感じてもらえれば、人材育成の面からも意義がある。また、交流は保育士にも刺激になる。

意見3：地域のイベントにおける東濃実業生徒の活躍は、地域の大人の刺激となり子どもの手

本となっている。ただ、休日のイベントは引率教諭の負担になっているのではないか。

意見4：大学進学を考えている中学生に、東濃実業からでも進学できること、専門科目を学んで進学すると大学で大きなアドバンテージがあることをアピールすると良い。

意見5：この地域には個人経営の企業が多い。新卒者の多くは大きな企業を希望するが、一旦就職して辞めた場合、次の就職先として個人経営の企業も選択肢となる。中途採用の受け皿がこの地域にはあることを、生徒たちに知らせてほしい。

意見6：学校評価アンケートの回答に「わからない」という選択肢は必要でしょうか。

(3) スクールミッションについて

前回学校側が提示した原案について協議し、修正案を策定した。

意見1：地域との結びつきを強調すべき。協働という言葉は象徴的であり、入れたい。

意見2：生徒が地元で活躍したいと思えるような取り組みを期待している。

意見3：高校で育ててほしいのは自分が生きる力であり、スペシャリスト育成は大学などの役割ではないか。

こうした意見を受け、修正したものを学校案として県に提出する。

(4) 意見・感想

会議時間が予定を超過しており、後日書面にて提出いただくこととした。

6 会議のまとめ

- ・実際に授業を参観していただくことで、学習内容や授業での生徒の様子を知っていただく良い機会となった。
- ・地域の行事やイベントへの参加など、本校の取り組みについて評価された。同時に、高い期待をいただいた。
- ・スクールミッションについて原案をもとに協議し、修正案を策定した。